

# 日野病院での学生実習

地域医療学講座 李 瑛

数年前から学生実習の担当者をしています。今回はこの学生実習について住民の皆様に向けて書いてみようと思います。

総合診療科の外来を受診した際や、病棟で入院された際に、鳥大の医学生の姿を見かけられた方もいるかと思います。彼らは臨床実習の学生です。

臨床実習は医学科4年生以降に1年半かけて行われる実習のことで、すべての科を回る臨床実習1と希望の科を回る臨床実習2があります。

医学生は4年生までに座学で概ね身体・臓器の働きや構造、さらに病気の理論、治療法について学びますが、やはり教科書と実際の患者さんでは異なります。

そのため、実習を通して患者さんの診察方法、検査の意義、治療についてなどなどを学びます。

現在日野病院では実習1で1週間、実習2で1ヶ月間の学生の受け入れを行っています。初診外来で患者さんから問診や診察をさせていただいたり、入院中の患者さんを担当させていただき、治療計画について考えたりします。もちろん学生だけで判断・実行することではなく、担当する医師にまず相談をしたうえで、治療方針を担当医師の責任のもと決定していきます。大学病院でも実習はありますが、日野病院での実習では病気のことを勉強してもらうことはもちろんのことながら、患者さんの目線に立つこと、患者さんの生活を意識することにも注目してもらっています。

特に入院中の患者さんは高齢の方のことが多く、入院中の治療ももちろん重要ですが、退院後の生活がうまくできるかといったサポートも必要になる方が多く、リハビリのスタッフと身体の動きについて相談したり、退院後の生活支援について地域連携室のスタッフと話し合ったりすることが求められます。こうした患者さんの生活まで考えられる医療の実践を学んでもらいたいと思いながら、学生さんに指導させてもらっています。

先日、今年度日野病院で1ヶ月間実習をした6年生の4人の学生さんとお話をする機会がありました。(ちなみに1週間の実習である実習1の学生さんは年間約100人おり、そのうちほとんどが日野病院で実習をしています) 1ヶ月間実習して日野町という地域のあたたかさを感じました、本当に素晴らしい1ヶ月でした、と皆言ってくれました。彼らは次の春から研修医となって、病気を抱える患者さんと向き合います。この日野病院で学んだことを大切にしながら、良いお医者さんになってもらいたいと心から願っていますし、またいつか日野病院と一緒に働ける日が来るといいなあ、などと想像したりしています。

日野病院の臨床実習の様子は今年度の鳥取大学の広報誌「風紋」でも紹介されています。「鳥取大学 広報誌 風紋 未来のための地域医療」で検索してみてください。

<https://www.tottori-u.ac.jp/about/docs/fumon82-2.pdf>

